

研修 評価

研修名	思春期・エイズ相談のための研修会				
領 域	思春期・エイズ 相談事業委員会	会場	新潟県看護研 修センター 2 階中研修室	受講料	会 員：0 円 非会員：0 円
対 象	学習段階レベル（Ⅰ～Ⅴ） 募集数(30 人) 応募数(20 人) 参加数(17 人) うち Zoom 参加数（11 人） 会員数(人) 非会員数(人)				
日 時	令和 7 年 7 月 1 日（火曜日） 13：30 ～ 15：40				
ねらい（目標）	1. 思春期・エイズ電話相談事業に従事する相談員、地域で思春期や HIV/エイズ 事業に携わる看護職に対し、相談員の資質の向上と思春期保健の理解を深める。				
講 師	1. 講師名：伊藤信行先生 所属：新潟県中央福祉相談センター 児童虐待・DV 対応班 事務専門幹				
内容・方法	○講義内容 1. 講演「電話相談における児童虐待（疑い）の通告（情報提供）と その後の児童相談所の対応について」 ○研修方法 ハイブリット形式（Zoom にて）				
結 果	評価基準： ①参加数が募集数の 70%以上 ②研修内容の理解度 （できた、ほぼでき た）80%以上 ③自己課題の達成度 又は研修目標（知識 技術）の習得度（で きた、ほぼできた） 80%以上 ④アンケートの意見 ○参加者数 17 名（80%） 【達成】 ○アンケート結果 ・理解度「理解できた」35.3%、「ほぼ理解できた」64.7% 【達成】 ・学習課題の達成度「達成できた」41.2%、「ほぼ達成できた」47.1% 【達成】 ○受講者の意見 ・思春期相談員として再学習し、その上で何ができるか考えたい。 ・性的虐待事例に対し、具体的な対応方法が聞けて、試していきたい。 ・支援と介入についてをしっかりと考えていかねばならないと思った。 ・方針決定のフレームワーク（KPT）は考えていく上で一つの視点になった。 受講者の意見から、相談の場面で活用が期待できる。				
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標：達成】 ・テーマ・目標・企画内容・時間配分など：適切であった ・アンケート結果（別紙参照） ○総括 相談場面で対応に苦慮する児童虐待（疑い）の対応と通告（情報提供） の実際を学ぶことができ、大変有効であった。今後は、全ての相談員が対応でき るように通告（情報提供）までのフローシート等を作成していく。				
課 題	・電話相談業務に関わる相談員の参加が少ない。参加できなかった相談員が受講 できるようオンラインの場合は、録画配信など検討していく。				
担当者	思春期・エイズ相談事業委員会				